

EU経済論		講義	教授 大西 一成
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200203

1. 授業のねらい・概要

欧州連合（EU）が抱える本質的な課題について、より経済学的な側面から学ぶことが本講義のねらいである。なかでも通貨問題、財政問題等を中心に取り上げる。欧州連合（EU）とは如何に歴史的意義をもった試みであるかという視点も重視する。また英国の欧州連合（EU）離脱がもたらした歴史的背景とそれぞれが抱える課題について考える。また新たな動きとして、英国と EU との新たな関係への動きについても取り上げる。さらに欧州連合（EU）が抱える資源・エネルギー問題についても取り上げる。

2. 授業の進め方

テキストはもとより、日々変化していく状況についての資料、データ等を用いる。受講者が自らの自筆ノートを作成し、自力で考えることを目指す授業とする。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の概要、進め方等について）	9. 南欧・北欧に見る新たな経済成長格差
2. 欧州連合（EU）の誕生と歴史的意義	10. 英国・欧州連合（EU）と米国の経済関係について
3. 欧州連合（EU）が抱える政策上の矛盾と課題	11. 英国・欧州連合（EU）とアジアの経済関係について
4. 英国・欧州に見るグローバル化とその課題	12. 欧州連合（EU）における財政統一への可能性
5. 英国の EU 離脱と TPP 参加が意味するもの	13. 欧州連合（EU）の金融政策における課題
6. 英国が抱える EU 離後の現状と課題	14. 欧州連合（EU）財政政策における課題
7. EU 経済が抱える資源・エネルギー問題を中心に	15. 欧州連合（EU）の課題の整理と総括
8. 通貨「ユーロ」が抱える問題点（金融政策を中心に）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、事前に配布した資料を読んでおくことを求める。そうした準備のもとに、新たに加える論文、資料、データも含め、概ね2時間程度の予習・復習が求められる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。宿題については、授業冒頭で解説する。宿題については、ミニッツ・ペーパーによる提出を求めるとともに、その解説は次の授業冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

欧州連合（EU）の歩みと英国の EU 離脱がもたらした歴史意義について学ぶことを到達目標とする。また、英国と欧州連合（EU）の関係における政策上の可能性について学ぶことに目標を置いている。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等（30%）、学期末試験（70%）によって総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、遠藤乾（2016）『欧州複合危機 苦悶する EU、揺れる世界』（中公新書、860 円+税）。田中素香（2016）『ユーロ危機とギリシャ反乱』（岩波新書、820 円+税）。

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A・B」については、履修済みであることが望ましい。また日々経済専門紙等に目を通しておくことも重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。